

アセスメント

5段階表

教材の特徴からのアセスメント

教材「5段階表」では、行動面に関する困難や特性から、課題に適した教材と支援、指導につながることを目的として作られました。

[困難な行動面]

・自分の声の大きさがわからない。

- ・必要もないときに、声を張り上げる。
- ・必要なときに、ボソボソとしか声に出せない。

→[支援] 声の大きさを5段階に分けて、どんな時にどのくらいの声の大きさが適しているのかを伝えます。いつも子どもが目に入るところに5段階表を貼っておきます。

子どもの声が大きすぎたり、小さすぎたりしたときに、すぐに表を指差し、どの大きさの声で話すのがよいかを示します。子どもがイライラしたり、怒鳴ったしても黙って数字を示してあげましょう。子ども自身が声の大きさが適していないことに気づかせ自覚することが大切です。また、どのくらいが適しているのかを場面場面で示してあげることも重要です。

→[教材] 5段階表「声のものさし」

・他人や自分の気持ちが理解できず、行動をコントロールできない。

- ・人を叩いたり、攻撃的な行動をすることがある。
- ・怒鳴ったり、荒々しく話すことがある。
- ・自分の気持ちがコントロールできず、パニックになる。

→[支援] 他者の視点についての理解を深め、自分の行動が他人にどんな影響を与えているかを学習しましょう。気持ち（怒り、嬉しいなど）がいろいろある事やいろいろあっていいことを教えます。それぞれの気持ちについて温度があることを温度計を使って数字にします。例えば「怒り」は、「何ともない。ふつう」「20度：少し、いやになる」「40度：いやな気持ち」「60度：イライラする」「80度：頭にくる」「100度：起こる。怒る」のように普通の状態から20度ずつ怒りの度合いが上がっていくように、気持ちの変化も変わっていくことを自分の気持ちにおきかえて表にしていけます。気持ちの温度がわかったら、気持ちと行動がどのようにつながっているかを「行動の5段階表」を使い、書いていきます。どんな気持ちになったとき、気持ちの温度が何度になったとき、こんな行動を起こしてしまうのかを子ども自身が把握することで、怒りが100度になる前に、大人にそれを知らせ、どうすれば良いかを練習していきましょう。

→[教材] 5段階表「気持ちの温度計」「行動の5段階表」